

平成 17 年 8 月 19 日

4 号機における原子炉隔離時冷却系タービン軸受油圧の不具合の調査結果について

4 号機は平成 17 年 8 月 16 日より原子炉を起動中ですが、8 月 17 日午前 4 時 17 分から原子炉圧力 1.03MP a での原子炉隔離時冷却系*の確認運転を実施した結果、その機能は満足していることを確認しましたが、原子炉隔離時冷却系タービン軸受油圧が所定の圧力まで上がらず、警報が発生しました。

(添付図「原子炉隔離時冷却系系統概略図」参照)

原因調査のため、同日午後 5 時頃より原子炉圧力を 1.00MP a 以下まで降下させ、当該油圧系を点検することといたしました。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

(8 月 17 日お知らせ済み)

点検の結果、油圧系の圧力を調整する給油調整弁が適正な動作をしなかったことが原因であることが分かりました。

給油調整弁が適正に動作しなかった原因は、当該弁の組み立ての際に、弁部品の位置の調節が不適切であり弁部品同士が干渉していたこと、およびチェックシートが組み立て時の弁部品調節位置を合わせるための測定箇所が明確になっていない様式となっていたことによるものでした。

対策として、当該弁組み立て時には弁部品同士が干渉していないことを確認すること、およびチェックシートを部品が正しく組み立てられていることが確認できるような測定箇所等を明記した様式に変更いたします。

また、今回の事象を協力企業との会議の場で事例として紹介し、再発防止に努めてまいります。

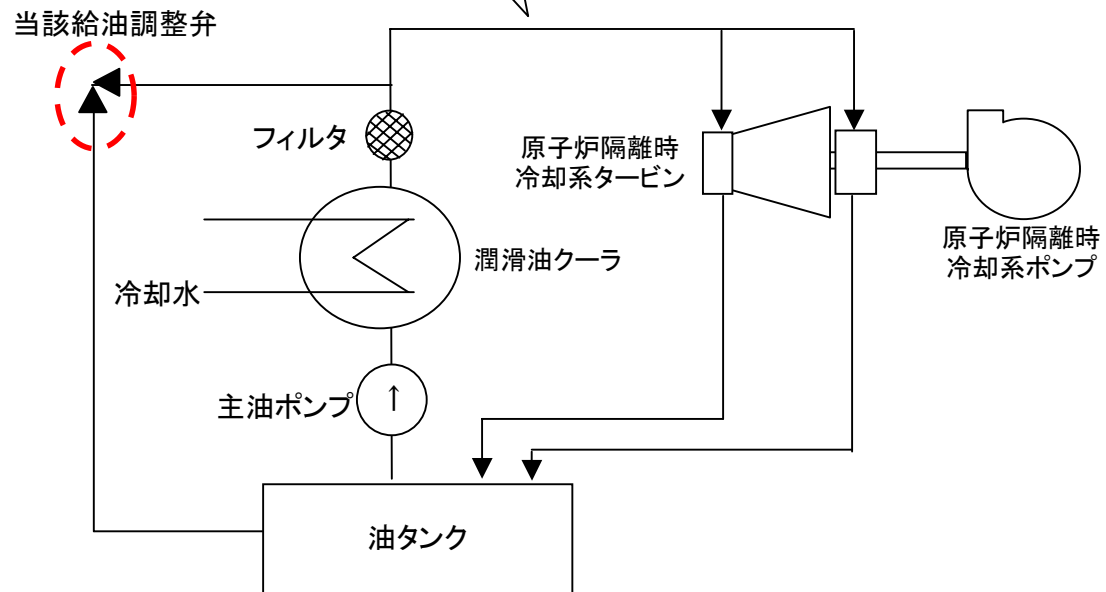
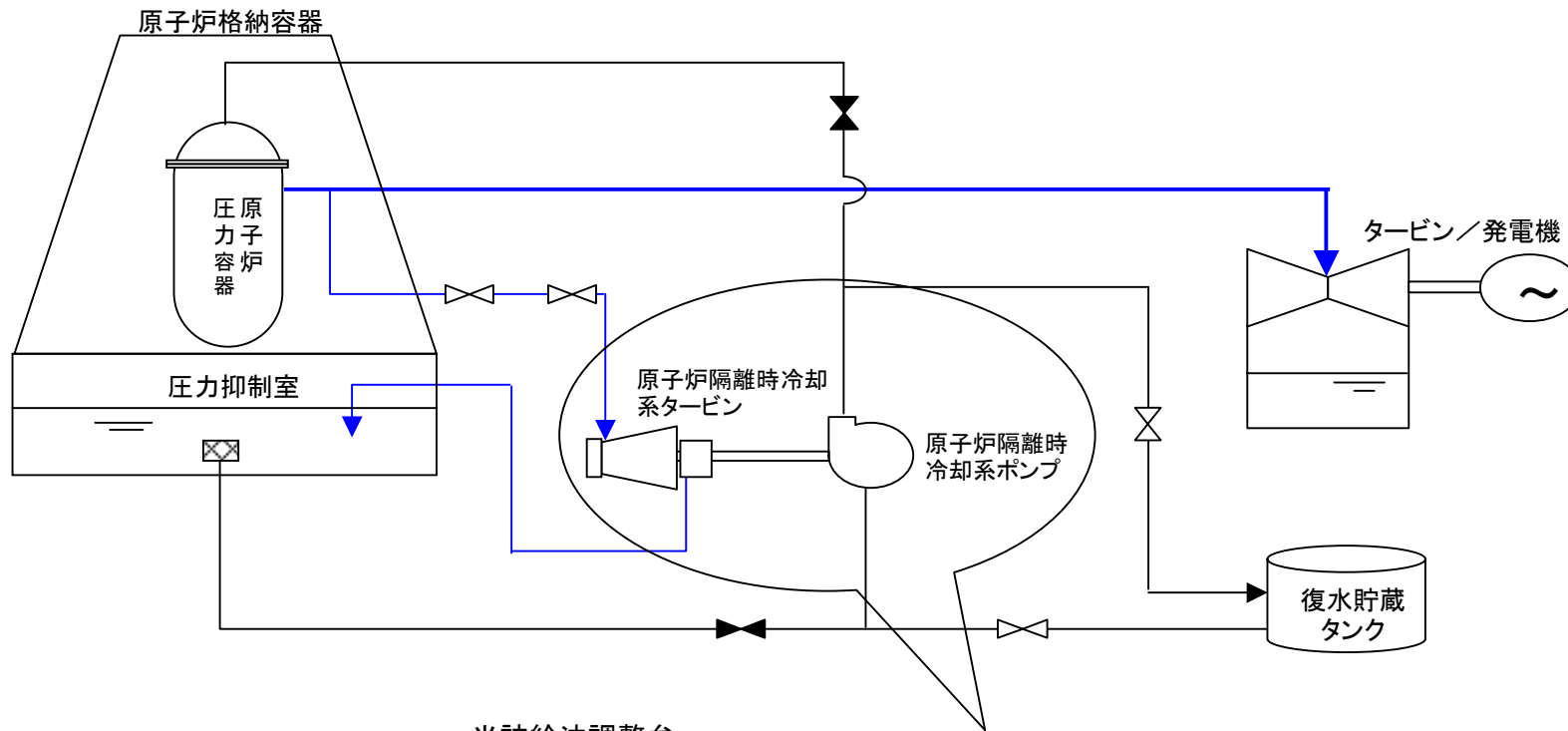
当該弁を正しく組み立て、再度確認運転を実施し、油圧が正常に上昇することを確認しました。

なお、準備が整い次第、原子炉の起動操作を再開いたします。

以 上

*：原子炉隔離時冷却系

何らかの原因により、通常の原子炉給水系が使用不可となり、原子炉水位が低下した場合等において、原子炉の蒸気を駆動源にしてポンプを回し、原子炉の水位確保および炉心の冷却を行う系統。なお、本系統は非常用炉心冷却系ではない。



原子炉隔離時冷却系系統概略図